JANOG42 参加レポート

中京大学 工学部 情報工学科

太田　健也

1　はじめに

本レポートでは、JANOG 若者支援プログラムを利用して参加した JANOG42 Meeting についての感想、および今後の目標について報告する。

2　応募した動機

私が本プログラムに応募した動機は、ネットワーク技術について深く学ぶだけでなく、参加者の方々と交流することにより、コミュニティとのつながりを深めたいと考えたためである。本プログラムにより参加した前回の本会議では、事業者や分野の違う方々が繋がることによりネットワークが支えられていることを実感した。そのため、今回は前回よりも多くの方と接したいと考えた。

3　感想

3.1　全般的な感想

プログラム全体を通し、前回と同様に事業者の壁を超えた議論が印象的であった。また、3 日目の午後には法的な問題に関連するプログラムもあり、技術面以外でも活発な議論が行われ、JANOG は幅広い議論を行える場であることがわかった。

全体の議論を通じ、各組織の内外どちらにおいても連携を意識する必要があることがわかった。内部では、運用や知識の共有のほか、メンバーが変わってもチームを維持できるようにすることが、どの組織でも課題であると感じたためである。外部では、誤った運用情報の掲載や経路広告を行うことが他のネットワークに悪影響を与えることと、他の団体との協力により、トラブルシューティングコンテストなどの活動を行えることがわかったためである。そのため、今後はより繋がりを意識した活動を行いたい。

3.2　印象に残ったプログラム

印象に残ったプログラムは、「短期間で開催される大会/イベントにおけるバックボーン構築について」である。本プログラムで参加した学生の方も登壇したプログラムであり、私の所属する ConvivialNet と同様に学生が運営をする団体についての発表だったため印象に残った。学生の運営委員がネットワーク構成や問題を考えるため、幅広い知識を身に着けたり経験を積んだりすることができる環境であることがわかった。また、チームビルディングに課題があることもわかった。同じく学生団体に所属するため、議論の内容は大変参考となった。そのほか、団体間で協力することでこれまでとは違う活動をしてみたいと考えた。

3.3　若者支援プログラム

前回に続き、本会議 1 日目終了後に本プログラムによる参加者との交流の機会をいただいた。今回は本プログラムの参加者以外の方々と同じ場になったこともあり、様々なお話を

伺うことができた。学生のことを気にかけていただいていることも実感できたため、その期待に応えられるような活動を進めたいと感じた。また、学生間の繋がりも維持していくことで本プログラムの意義を最大化できると考えるため、積極的にコミュニケーションを取りたい。

4　得たこと・今後の目標

JANOG Meeting へ参加し、人の繋がりがネットワークを支えることを再認識した。技術力や知識は不足していると考えるため、継続的に学習するほか、今回の JANOG で得た繋がりを活用することで技術者として成長していきたい。また、大学院へ進学するため、残り 2 年半あまりの学生生活において、学生ならではの活動をしていきたい。具体的には、ConvivialNet の活動を活発にしたり、トラブルシューティングコンテストなどの他の学生団体と連携したりするなど、繋がりを広げていくことを今後の目標とする。

5　まとめ

若者支援プログラムを利用して JANOG42 に参加した。前回と同様に、人のつながりがネットワークを支えていることを実感した。ネットワークに関わる団体に所属し、その一部を担っている立場として、繋がりを維持、拡大することで、技術者として成長していきたい。